

平成18年度 T-2 計算機工学 実験ガイダンス

1. 年間計画表

月日	曜	実験項目	備考
5月25日	木	1. 論理回路の動作確認	
6月8日	木		・前期中間試験 6/8~14
6月22日	木	2. 論理関数の簡単化	
7月20日	木		夏季休業 7/18~8/31
9月14日	木	3. 半加算器および全加算器	
9月28日	木		・前期期末試験 9/25~29
10月12日	木	4. 比較器およびエンコーダ・デコーダ	
11月9日	木	5. フリップフロップ	
12月7日	木		・後期中間試験 12/6~12
12月21日	木	6. 順序回路	
12月28日	木		冬季休業 12/23~1/9.
1月25日	木	7. カウンタ	
2月22日	木		・後期期末試験 2/21~2/27

※ 担当者の都合により実施日を変更することがある。

2. 担当者とレポート提出先

実験担当教員 : 田口, 大田

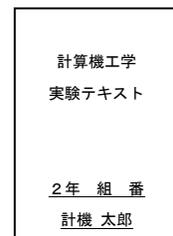
レポート提出先 : 校舎棟3階レポート箱 (透明プラスチックケース)
(遅れて提出する場合は直接実験担当教員に渡す)

3. 実験室

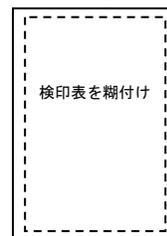
- ・ 計算機工学実験のときは制御棟3階の電子工学実験室に集合する。
- ・ 室内はスリッパ履きである。自分の出席番号のスリッパに履き替える。

4. 実験テキスト

- ・ テキストは実験の1週間前までに配布するので、フラットファイル (B5S) を購入して綴じておくこと。ファイルの表紙には下のように大きく番号名前を記入する。
- ・ 実験テキストを綴じるファイルの表紙の裏に検印表を糊付けする。



ファイルの表紙



表紙の裏

5. 評価

【成績評価の方法】

- ・ 計算機工学の総合評価の割合は定期試験 60%, 小テスト 20%, 実験実習レポート 20% である。
- ・ 各実験レポートの評価は A, A', B, B', C の5段階 (10~6点) 10点満点で行う。

Cは再提出とする。

- ・ 成績提出の期日までに行った実験レポート評価の平均点を2倍して計算機工学の成績に加える (実験の評価は20%)。
- ・ 1項目でも実験を実施しなかったり、検印を貰えない場合は計算機工学の学年総合成績を29点以下とする。 欠課、公休忌引などで実験を当日できなかつた者は、速やかに担当教員に申し出て追実験を行う。

4. 実験レポート

- ・ 実験レポートは実験テキストに直接書き込む。
- ・ レポート提出締切は実験終了後1週間以内で、遅れた場合は減点する。

【レポートの提出遅れによる減点】

- ・ レポートの提出遅れ1週目は2点減点, 2週目以降1点ずつ減点する。但し, 当該実験項目の評価点が0点以下になるようには差し引かない。
- ・ 遅れ週の計算は, 実験指導者が特に指示した場合を除き, 次のレポート締切日毎に数える。

【レポートの提出期限】

- ・ レポートの締切りは, 実験指導教員が指示した場合および定期試験・中間試験の期間を除き, 1週間後の実験実施日と同じ曜日の午前8時30分とする。但し, 締切り日が登校日でない場合は次の登校日の午前8時30分とする。上記は, 追実験の場合も同様とする。
- ・ 公休, 忌引, 出席停止の場合は, 公休等が終了した翌々日の午前8時30分をもって, レポートの提出締切り日とする。

6. 実験上の注意

【予習】

事前に実験テキストを読んで疑問点を出しておく。教科書も対応するところを予習しておく。テキストの式の誘導も行ってみる。

【配線】

計器は定格等を考えて正しく選び, リード線は色分けして適当な太さの線を使う。実験回路の配線はスイッチを投入する前によく確認をすること。

【測定】

測定中に異常が認められた場合, 直ちに電源を切り, 担当者に連絡して指示を受ける。

【結果】

実験中にテキストの記入欄に結果とその処理を鉛筆で記入し, 実験終了後直ちに吟味考察, 質問感想を所定の欄に書いてレポート提出先教員に提出する。

【後片付け】

測定が終わったら, 担当者に連絡し指示を受ける。
計器類の電源コードの収納の仕方を担当者に尋ね, 正しく巻き取る。
計器を片付けた後, 全員で掃除をする (机の上を拭き, 床を掃く)。

【復習】

わからないことはそのままにしないで担当者に質問し, テキストに記入しておく。また, 図書館の本などで調べておく。